

意 見 書

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様

2005年11月19日
吉田 博昭

私ども流域住民の暮らしと安全を守る武庫川計画策定にご尽力戴き有難く思います。検討も佳境に入り、これから具体的な対策検討に進み、課題が具体的になればなるほど、流域住民を含め個人々の考え方の相違や利害関係が明らかになり難しい舵取りが迫られるものと思いますが、一層のご尽力を期待しています。

ホームページに掲載された記録を元に私の意見を少し述べさせていただきます。なお 既に議論を終えたところあるかと思いますが齟齬があればご容赦願います。

中間報告で、『「基本高水は河川整備基本方針に掲げる将来目標値である」という考え方は共通している。しかし、基本高水は「計画降雨量に対し、対策を考える上での想定すべき流量として位置つけるものである」という考え方と、「環境とか財政などの諸条件と照らし合わせても、きちんと対応できるような実現可能な設定値の範囲にとどめなければならない」という考え方に分かれている。』と記載されていますが、前者は基本方針そのもので、後者は整備計画に当たるのではないのでしょうか。基本高水は河川安全度を長期的な観点から評価する最も基本的な目標数値であり、現在の科学技術と経験上から得られた最も大きな数値を採用していただければ一番安心できます。

整備計画は財政などの諸条件に照らしあわせ実現可能な目標数値を採用し、具体的に実施されなければならないのは当然のことで、整備計画を積み上げて将来的目標達成に向かって努力すべきだと思います。

武庫川流域委員会は、河川整備方針と整備計画策定について諮問を受け、0ベースから計画を見直すことで作業を進めてこられた経緯から考えても「環境・財政などの諸条件・・・」ありきの基本方針は考えられません。ましてダム建設の賛否を念頭に置いた基本方針なんて全くナンセンスな話だと思います。私はダム反対に固守するものではなく、自然環境や治水、利水、景観、財政・・・など総合的に考えてダムが最も適切ならダム建設を反対するものではありません。

下流流域の水は殆ど淀川水系に頼っており、水余りから余野川ダム建設が凍結されたように武庫川に新たな水源を求める必要は無く、利水のためのダムは必要性がないと思います。また 大水が出たり干上がったりののが武庫川の自然で、渇水時にも一定の水を流し景観や希少生物保護を目的としたダムも考えにくい。

基本高水は過去の降雨データを基礎にしているとは言え、多くの仮定の条件が含まれており、計算は正確で正しいとは思いますが、多くの不確定要素を含んでおり将来にわたって必ずしも保証できるものではなく、一定の割りきりが必要だと思います。

23号台風で大野ダムが溢水の危機を犯して流失を抑えたが、由良川が氾濫しバスが水没した。九州では死者20名を出した台風14号の豪雨も、干上がっていた早明浦ダムのお陰で四国は被害を免れたように、一方は不幸にして洪水、もう一方は干天に慈雨となったように、人間のできることには限界があり理屈抜きの割り切りも必要かと思います。総合治水は、技術の進歩や社会環境の変化に合わせ、人類が存在している限り永遠に見直し続けるものだと思います。